

裏面白紙

220

宗

大正七年二月十九日

花入

官報

立案 大正七年二月十九日

宗務

宮内事務

決裁 大正 年 月 日

大臣

次官

西五位勲五等 吉田清英特旨
敕位、件

九
五

二月十八日

十六

宮内省

大正七年二月十八日
二月十九日
官報

六六



正五位勲五等吉田清英

特旨叙位ノ件

右謹テ裁可ヲ仰ク

大正七年二月十八日

内閣總理大臣伯爵寺内正毅



内

閣

大正七年二月十八日

内閣書記官

内閣總理大臣

内閣書記官長



二月十八日裁可

正五位勲五等吉田清英ハ夙ニ勤王ノ志厚ク萬延慶應ノ間ニ於テ屢々島津久光ニ扈從シテ京師及ヒ江戸ニ來往シ又西郷隆盛大久保利通黒田清隆黒田清綱西郷從道大山巖黒木為楨等ト共ニ王事ニ奔走ス明治戊辰正月山陰道鎮撫總督西

内閣

園寺公望參謀黒田清綱ノ先鋒トシテ軍身生野銀山ニ至リ幕府代官ニ朝旨ヲ傳ヘ順逆ヲ説キソノ使命ヲ全クシ大ニ勲功ヲ建テ又北陸道平討ノ師ニ從ヒ越後長岡參謀部總兵站ノ任ニ當リ能ク苦戰奮闘ノ間ニ處シ大ニソノ任務ヲ全フシソノ功ヲ賞セラル

明治四年十一月東京府權典事ニ任セラレ同七年酒田縣ニ轉シ同九年埼玉縣權典事ニ轉シ累進シテ同縣知事トナリ明治二十二年

非職ニ至ル間實ニ十有餘年縣治ニ對ス
ル功績淡カラス猶ホ退官後ハ志ヲ專ラ
蠶業ニ致シ明治四十三年七月ツノ功ヲ録
セラレテ特ニ藍綬褒章ヲ下賜セラレ
上記ノ如ク功績顯著ナル者ニ候處目下病
氣危篤ノ趣ニ付此際特ニ位一級被進
然ルヘシ

正五位勲五等吉田清英
特旨ヲ以テ位一級被進

正五位勲五等吉田清英

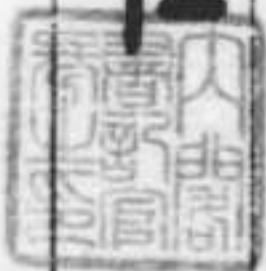
内

閣

敘從四位

大正七年二月十八日

内閣書記官



宮内事務官

清牛

通牒

吉田清英叙位ノ儀別紙ノ通牒
裁可相成候旨出張内閣書記官
ヨリ通知有之候ニ付至急發令方取
計相成度

内閣

関七二

大正七年二月十八日

内閣書記官

内閣總理大臣

大

内閣書記官長

印

正五位勲五等吉田清英ハ夙ニ勤王ノ志
厚ク萬延慶應ノ間ニ於テ屢々島津久
光公ニ扈從シテ京師及江戸ニ來往シ
又西郷隆盛大久保利通里田清隆里
田清綱西郷従道大山巖里木為禎
等ト共ニ王事ニ奔走ス明治戊辰正

月山陰道鎮撫總督西園寺公望參
謀里田清綱、先鋒トシテ單身生野
銀山ニ至リ幕府代官ニ朝旨ヲ傳ハ
順逆ヲ説キ其使命ヲ全クシ大ニ勲
功ヲ建テ又北陸道征討ノ師ニ從ヒ越后
長^岡參謀部總兵站ノ任ニ當リ能ク苦戰
奮鬪ノ間ニ處シ大ニ其ノ任務ヲ全フ
シ其功ヲ賞セラレ

明治四年十一月東京府権典事ニ任
セラレ全七年酒田縣ニ轉シ全九年

急ヲ要シ
上本支ノ
才此官ニ
印ノ以テ

大正七年二月十八日

内閣書記官

内閣總理大臣

大臣

内閣書記官長



正五位勲五等吉田清英ハ夙ニ勤王ノ志
厚ク萬延慶應ノ間ニ於テ屢々島津久
光公ニ扈從シテ京師及江戸ニ來往シ
又西郷隆盛大久保利通里田清隆里
田清綱西郷従道大山巖里木為禎
等ト共ニ王事ニ奔走ス明治戊辰正

月山陰道鎮撫總督西園寺公望參
謀里田清綱ノ先鋒トシテ單身生野
銀山ニ至リ幕府代官ニ朝旨ヲ傳ハ
順逆ヲ説キ其使命ヲ全クシ大ニ勲
功ヲ建テ又北陸道征討ノ師ニ從ヒ越后
長岑謀部總兵站ノ任ニ當リ能ク苦戰
奮鬪ノ間ニ處シ大ニ其ノ任務ヲ全フ
シ其功ヲ賞セラル

明治四年十一月東京府権典事ニ任
セラレ今七年酒田縣ニ轉シ今九年

急ヲ要シテ大臣決裁ノ
上本支ノ部ヲ電報ヲ以テ出張
書記官ニ直告方有ラズ官
印ノ以テ上奏亦四年一書ハ

埼玉縣権参事ニ轉シ累進シテ今
 縣知事トナリ明治二十二年非職ニ
 至ル間實ニ十有餘年縣治ニ對ス
 ル功績淺カラス猶退官後ハ志ヲ專
 ラ蠶業ニ致シ明治四十三年七月其功
 ヲ録セラレテ特ニ藍綬褒章ヲ下賜セ
 ラル
 上記ノ如ク功績顯著ナル者ニ矣處
 目下病氣危篤ノ趣ニ付此際特ニ
 位一級被進然ルハシ

内閣

特旨ヲ以テ位一級被進
 正五位勲五等吉田清英

正五位勲五等吉田清英

叙從四位

經歷

吉田清英君ハ夙ニ勤王ノ志厚ク萬延慶
應ノ間ニ於テ屢々久光公ニ扈從シテ京師
及江戸ニ往來シ又西郷隆盛大久保利通黒
田清隆黒田清綱西郷從道大山巖黒木
爲楨等諸子ト共ニ王事ニ奔走ス明治戊
辰ノ正月山陰道鎮撫總督西園寺公望公
ノ參謀黒田清綱氏ノ先鋒トシテ單身生野
銀山ニ到リ幕府代官ニ朝者ヲ傳ヘ順逆ヲ
説キ一兵ヲ血ヲラスシテ銀山ヲ政府ニ收ム黒
田參謀次テ到リ山陰道鎮撫ノ首途ニ於ケル功
績ヲ稱セラル又次テ北陸道征討ノ師ニ從ヒ
越後長岡參謀部總兵站ノ任ニ當リ良ク苦戰
奮闘ノ間ニ處シ辛酸ヲ嘗メ兵站ノ全キヲ得
タリ黒田清隆參謀長ノ知遇ヲ得シハ實ニ
此後方任務ノ功績ニ依ル之レヲ以テ後太政
官ヨリ恩賞ヲ受ケタルモノナリ
王政維新ノ大業マサニ成ラントスルノ際母君
病弱ノ報イリ請フテ歸郷ス孝養藥餌ノ功
顯ハレソノ病急タルニ及ンデ明治四年其筋ノ召ニ

應シテ東上シ東京府権典事ニ任セラル次テ典
事トナル明治七年鶴ヶ岡縣七等出仕トシテ赴
任シ時ノ縣令三島通庸氏ヲ補佐シテ難治ノ
称アル縣治モ能ク平治スルコトヲ得タリ居ル
事三年ニシテ埼玉縣ニ轉シ權參事ヨリ累
進縣知事トナルソノ間實ニ十有五年縣民ノ
信賴又少カラズ明治二十二年十二月非職トナ
リ次テ明治二十六年二月正五位ニ叙セラル官
途ヲ退イテヨリ専ラ志ヲ蚕業ニ用ヒ養蚕或
ハ製糸ニ依ヒ又蚕種貯藏ノ装置ヲ創成シソノ
功績ヲ録セラレ明治四十三年特ニ藍綬褒章
ヲ賜フ

履歷書

正五位勲五等

吉田清英

現住所 東京市麹町區下六番町三十一番地

東京府士族 旧鹿兒島藩 旧名清藏 又稱六二

天保七年庚子十月十七日薩摩國鹿兒島市加治屋

町三於生

年月日	任免	賞罰	事故	官廳名
明治九年正月	鎮撫使西園寺公望、隨行山陰			
	道出張申付候事			京都出張 鹿兒島藩
同年二月	御幸三月大坂出張申付候事			同上

同年四月	北陸道進軍大小荷駄方差引役 申付候事	同	上
同年六月	北陸道總荷駄方申付候事	長岡出張 参謀本官	上
同二年三月	賞典祿六石下賜	鹿兒島藩	上
同上	民事奉行見習申付候事	同	上
同年六月	地頭副役申付候事	同	上
同年十月	民事奉行申付候事	同	上
同年七月	日州諸縣郡上庄内郷檢地出張申 付候事	同	上
同年五月	戊辰年賊徒騷擾、研軍事勉	同	上

10 山崎

同四年十月	藩用ニ付出京申付候事	大政官	
同年七月	任東京府権典事	鹿兒島藩	
同	宮繕掛可相勤候事	同	上
同五年五月	任東京府典事	同	上
同	郷村掛可相勤候事	同	上
同六年一月	下議院御用掛可致意勤事	同	上
同年八月	府縣官中官制改正	同	上

同十年八月	叙正七位	同	上
同十年一月	府縣參事以下被廢	同	上
同 年同月	任埼玉縣少書記官	同	上
同十年五月	任埼玉縣大書記官	同	上
同十年五月	叙從六位	同	上
同 年八月	任埼玉縣權參事	同	上
同九年六月	酒田縣改稱鶴岡縣	同	上
同 年八月	兼任七等判事	同	上
同八年六月	補酒田縣七等出仕	大	政
同七年十月	補酒田縣七等出仕	官	府
同 年八月	任東京府大屬		

山城守

同十四年八月	鶴岡縣七等出仕奉職中其 縣地租改正事務勉勵候三付 為其賞別紙目錄之通下賜 候事 目錄白編細老足	同	上
同 年九月	職務格別勉勵候三付為慰勞 金百五拾圓下賜候事	同	上
同十五年三月	任埼玉縣令	同	上
同 月	月俸貳百圓下賜候事	同	上
同 年五月	叙從五位	同	上
同七年五月	自今月俸貳百五拾圓下賜候事	同	上

同年六月	官幣中社金鎖神社、告祭	
	勅使上レテ奉向被仰付候事	同 上
同年七月	叙勲六等賜旭日綬章	賞 勲 局
同九年七月	地方官制被定	
同 年 七 月	任埼玉縣知事	内 閣
同 月	叙奏任官一等賜下級俸	同 上
同廿年二月	今般憲法發布並皇座典範御 治定ニ付奉告ノ為、其縣管内 官幣社、勅使上レテ奉向被仰 付	内 省

10 山城屋

同年五月	明治廿二年八月三日勅令第百参 號、旨ニ依リ大日本帝國憲法 發布紀念章ヲ授與ス	賞 勲 局
同 年 五 月	非職ヲ命下	内 閣
同 年 五 月	叙勲五等賜瑞寶章	賞 勲 局
同廿六年二月	叙正五位	宮 内 省
同卅年七月	勅定、藍綬褒章ヲ賜	賞 勲 局

日本帝國褒章之記

正五位勲五等 吉田清英

資性篤實夙ニ埼玉縣ノ地勢風土能ク蠶桑ノ業ニ適
スルヲ察知シ競進社長木村九藏ト謀リ兒玉郡本庄町
ニ蠶種貯藏庫ヲ建設シ汎ク蠶種ヲ集メ後推サレ
テ社長トナリ銳意研鑽益々蠶種ノ貯藏法ヲ改良シ
テ克ク蠶種ヲ嚴密ニ保護シ大ニ新業上ニ裨益ヲ
興ヘ又町民ニ製絲所ヲ興サシメ後自ラ之ヲ經營シ
以テ模範ヲ示シ桑園ヲ改造シ良種ヲ栽培シ蠶
種ヲ製造シテ産額ヲ増加シメ其他傳習生ヲ養
成シ教師ヲ派遣シテ其ノ指導サニ努メ縣下今日
ノ盛況ヲ觀ルニ至リシ所以ノモリ其ノ啓發誘掖ノ
効ニ由ラダンハアラス洵ニ公衆ノ利益ヲ興シ成績
著明ナリトス

依テ明治十四年十二月七日

勅定ノ藍綬褒章ヲ賜ヒ其ノ善行ヲ表彰セラル

明治四十三年七月十二日

賞勳局總裁從三位勲四等伯爵正親町實正

此ノ證ヲ勘査シ第六百五十三號ヲ

以テ褒章簿冊ニ登記ス

賞勳局書記官秩四位勳三等 横田香苗
賞勳局書記官秩五位勳四等 藤井善吉

裏面白紙

丙 大正七年二月十八日

立案 大正七年二月十八日

決裁 大正七年二月十八日

賞格書記官



宗秩寮



案

特旨ヲ以テ

正五位勲五等吉田清英
位一級被進
正五位勲五等吉田清英

叙從四位

右之通本日 宣下相成候條此旨及傳達
候位記茲辭令 追テ可及回送候也

大正七年二月十八日

宗秩寮總裁

從四位吉田清英

七二十八



(五)



奇
大正七年二月廿八日

一 從四位上 勳五等 吉田 清英

右位記竝辭令及回送候條交付方御取計有之度候也

大正七年二月廿八日

宗秩寮總裁候爵井上勝之助

吉田鐵太郎殿

宮内省

裏面白紙

236